

令和5年1月17日

東京都歴史教育研究会
会 員 各 位

東京都歴史教育研究会会長
東京都立葛西南高等学校長

関山 勝之

東京都歴史教育研究会見学委員会委員長
東京都立成瀬高等学校長

高野 修一

東京都歴史教育研究会 春季史跡見学会のご案内 「皇居周辺 歴史探訪 ～近代の東京を歩く～」

小寒の候、皆様におかれましては、ますます御盛栄のこととお慶び申し上げます。令和4年度春季史跡見学会を企画いたしました。ここに、ご案内いたします。

今回は、皇居周辺を中心に、九段会館・昭和館・北の丸公園・日比谷公園・東京駅などを見学いたします。

午前は、九段会館・昭和館を見学します。九段会館は、東日本大震災の影響で廃業後、新しいレトロモダンなランドマーク施設「九段会館テラス」として、今年の11月にグランドオープンしました。昭和館は、国民が経験した戦中・戦後の国民生活に係る資料が展示されており、後世にその労苦を伝える国立の博物館です。見学後は、昭和館館内にて「次世代の語り部」講話を聞きます。「次世代の語り部」とは、戦中・戦後の労苦を伝える戦後生まれの人々による講話活動です。

午後は、講師として東京都公文書館の西木浩一氏をお招きし、皇居周辺の北の丸公園・日比谷公園・東京駅などを見学します。竹橋事件などの貴重な知見を伺いながら、各地を巡る予定です。

感染症対策を十分にして、皆様の参加を心よりお待ちしております。なお、感染状況によっては、参加人数を制限させていただきます。

- 1 期 日 令和5年3月19日(日) 雨天決行
- 2 見学地 千代田区(九段会館・昭和館・北の丸公園・日比谷公園・東京駅など)
- 3 講 師 東京都公文書館 課長代理(史料編さん所担当) 認証アーキビスト 西木 浩一 氏
- 4 集 合 午前9時30分 九段会館テラス(九段下駅4番出口より徒歩1分)
解 散 午後5時00分 東京駅
- 5 参加費 1000円(資料代,その他雑費)

- 6 行程 <午前> 九段会館 → 昭和館 → 「次世代の語り部」講話を拝聴 → 各自昼食
 (予定) <午後> 西木浩一氏を、講師としてお招きし、史跡見学
 北の丸公園周辺(近衛歩兵第一聯隊跡、近衛歩兵第二聯隊記念碑など)
 → 日比谷公園 → 皇居前広場 → 明治生命館 → 東京駅
 ほかに品川弥二郎像・大山巖像・吉田茂像・楠公銅像・桜田門・坂下門なども見学予定

7 問い合わせ先

○参加に伴う服務上の扱いに関するお問い合わせ

東京都立成瀬高等学校長 高野 修一 電話042-725-1533

○史跡見学会に関するお問い合わせ

東京都立大泉高等学校附属中学校教諭 大野 健人 電話 03-3924-0318

携帯090-3538-5676(当日の連絡先)

8 申込

〈送付先〉〒178-0063 東京都練馬区東大泉5-3-1

東京都立大泉高等学校附属中学校 大野 健人

Email Kento_Oono@education.metro.tokyo.jp

FAX 03-3924-9931

下記の申込書・QRコード・Forms ハイパーリンクのいずれかにて、お申し込みください。

申込書の場合は、メール・FAX・封書のいずれかにて、ご送付ください。

<https://forms.office.com/r/j2VITV8bpX>

東京都立大泉高等学校附属中学校 大野 健人 宛 FAX 03-3924-9931



東京都歴史教育研究会 春季史跡見学会 申込書

ふりがな 氏名		所属	
住所	(写真などの送付に使用させていただきます)		
電話			
通信欄	昭和館、「次世代の語り部」講師、 東京都公文書館の西木浩一氏に質問されたいことがありましたら、ご記入ください。		

申込締切 令和5年3月10日(金)

春季見学会の主な見どころ

本文は、東京都歴史教育研究会 編(2014)『東京都の歴史散歩 上 下町』山川出版社 より編集
赤字ゴシックは、全国歴史教育研究協議会 編(2022)『日本史用語集 改訂版』山川出版社 に掲載されている用語

〈午前〉

昭和館

旧江戸城の**田安門**(国重文)を右手にみながら行くところ。厚生労働省が戦没者遺族への援護事業の一環として1999年に設立した施設。おもに戦中・戦後(昭和10年~30年ごろまで)の国民生活を実物資料や映像などを用いて伝えている。昭和館の横に**蕃書調所跡**(都旧跡)の標柱がたてられている。はじめは**洋学所**という名称で、1855年、幕府により神田小川町に設けられたが、翌年この地に移され蕃書調所跡と改称された。現在の**東京大学**は、蕃書調所の後身である。

九段会館

昭和館の隣り、帝冠様式とよばれる和洋折衷の建物。**在郷軍人**のための帝国軍人会館として、1934年に竣工し、1936年の**二・二六事件**のときには戒厳司令部がおかれた。

〈午後〉

北の丸

1603年、**家康**が江戸に幕府を開いて天下の覇権を握ると、全国の諸大名へ天守閣などの築城工事が**御手伝普請**として課されていった。その結果、3代将軍**家光**の1636年、江戸城の総構が完成した。総構は内郭と外郭からなる。内郭は最内郭の**本丸**・二の丸・三の丸・**西の丸**と、**中曲輪**に相当する吹上曲輪・北の丸・西の丸下・大名小路・大手前からなり、その規模は、ほぼ**大坂城**の外郭全体に当たる。外郭は外濠と隅田川、および**江戸湾**に囲まれた内側で、当時の江戸城下町の大部分がはいる。

北の丸公園

竹橋と一番町を結ぶ代官町通りと千鳥ヶ淵・牛ヶ淵・清水濠に囲まれた地域が旧北の丸である。本丸大地に続く田安台につくられた北の丸は、千鳥ヶ淵から乾濠につうじていた川の谷を埋めて拡張したものである。

明治になると、北の丸に**近衛兵**の兵営がおかれた。1871年、**廃藩置県**を断行するために**薩摩**・**長州**・**土佐**の3藩から集めた**御親兵**を、翌年近衛兵と改称して天皇護衛を専務させ、1874年には歩兵・砲兵の兵営が設置された。1878年、近衛砲兵第一大隊の兵260余人が、前年の**西南戦争**の論功行賞と減給に不満を抱いて反乱をおこし大隊長らを殺害、**清水門**前の**参議**大蔵卿**大隈重信**邸を砲撃した。さらに**赤坂離宮**の仮皇居の門前で嘆願しようとしたが、まもなく**鎮台兵**に鎮圧された。これが**竹橋騒動**である。

北の丸公園を南北に縦断している車道にでて西側の遊歩道を進むと、「近衛歩兵第二聯隊記念碑」「近衛歩兵第一聯隊跡」といった、かつて近衛師団の兵営であったことを示す記念碑がたてられている。

日比谷公園

日比谷公園は、1903年に開園されたドイツ式庭園である。針葉樹と西洋式の構成が特色。長州藩**毛利**家上屋敷・佐賀藩**鍋島**家の上屋敷の跡で、明治初年の火災で焼失したのち、陸軍練兵場となっていた。日本最初の西洋式庭園として市民に愛されている。

公園の北側にある日比谷公園記念資料館(都文化)は、1910年11月に竣工したドイツ・バンガロー風の建物。明治期の数少ない木造洋風建築として貴重なものである。公園の南側にある日比谷公会堂は、1929年に、安田財閥の創始者である**安田善次郎**の寄付によってできた。ネオ・ゴシック風の建物は、**早稲田大学**大隈講堂の設計で知られる佐藤功一の作品の1つである。この公園でおきた最大の事件が**日比谷焼打ち事件**である。**日露戦争**の**ポーツマス条約**で賠償金をとれなかったことに不満をもつ民衆の暴動は、旧野外音楽堂(現在の大噴水の場所)で発生している。

明治生命館

馬場先交差点の北東角にある。1934年竣工(国重文)。設計者は**歌舞伎座**も手がけた岡田信一郎である。明治生命館は、コリント式の列柱が美しいネオ・ルネサンス様式のオフィスビルで、昭和の建造物ではじめて重要文化財に指定された。重厚な外観とは反対に、内部は1・2階吹抜けの近代的なオフィス空間が広がっている。

明治生命館の東には、旧**三菱**一号館が復元され、各種の美術展が開かれている。

明治生命館北隣の千代田ビル一帯は、**林大学頭**邸跡(都旧跡)である。**林家**は徳川家康に儒官としてつかえた**朱子学者****林羅山**を祖とする。林家は、御茶ノ水の**湯島聖堂**と**昌平坂学問所**を管掌・主宰した。

東京駅周辺

東京中央停車場(現、**東京駅**・国重文)開業は、1914年12月。鉄道の線路竣工は1910年であったが、三菱によるオフィス街の形成により、東京の中心部へ鉄道を乗り入れ、中央停車場を建設することが決定したのは、1906年である。

設計は、**ジョサイア・コンドル**から西洋建築を学び、明治建築界を主導した**辰野金吾**である。外面は、六角球形の典雅なドームをもつ屋根が特徴的な、明治期最後の西洋建築の遺構である。外壁は赤レンガ・白御影石、ルネサンス様式の表現を用いて、駅舎というより町並みのような印象の壁面がかざられている。

左右のドームの両翼は間口約335mにもおよぶ巨大建築である。当初の平面計画では、中央正面出入口は皇室専用とされ、一般の人びとの出入口は左右のドームの下にあった。**関東大震災**をくぐりぬけた東京駅ではあったが、**第二次世界大戦**の空襲で屋根や内部を焼失し、戦後、大ドームは三角屋根に、3階建ては2階建てにつくりかえられた。現在は、2007年から2012年にかけて行われた保存・復元工事によって創建当時の姿が再現されている。

東京駅では、現職の**内閣総理大臣**の遭難事件が2度ある。1921年11月4日、首相**原敬**は、丸の内南口の改札手前で18歳の山手線大塚駅員中岡良一に刺殺された。丸の内南口改札口の手前、券売機の左側に説明板がある。説明版前の床のタイル中央には、原敬遭難場を示す○印がある。また、1930年11月14日、首相**浜口雄幸**は、駅構内の中央通路8番線北側上り階段で、23歳の右翼団体社員佐郷屋留男に狙撃され重傷をおった。当時の8番線階段は、東京駅の新幹線ホーム増築で失われてしまった。そのために、現場の真下にあたる東海道新幹線改札口へのぼる階段手前の床面に、真鍮の○印がついた茶色のプレート版がはめこまれ、浜口雄幸遭難の場所を示している。また、中央通路のエレベーターからみて左手の円柱の壁に案内板がある。浜口首相はその傷がもとで、翌年8月26日に死亡した。

東京駅八重洲の前面には、1950年前後まで外濠が残っていたが、第二次世界大戦後、戦災による瓦礫や焦土を処理する目的でこの部分の外濠が埋め立てられ、八重洲口前の外濠通りになった。